

# 船舶事故調査報告書

平成28年12月15日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年1月13日 11時12分ごろ
発生場所	大分県大分市大分港 大分港日吉原泊地東防波堤灯台から真方位052° 1,420m付近 (概位 北緯33° 16.0′ 東経131° 47.0′)
事故の概要	液化ガスばら積船日吉丸は、南進中、また、引船龍豊丸は台船Y27をえい航して北東進中、日吉丸とY27が衝突した。
事故調査の経過	平成28年1月14日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 液化ガスばら積船 日吉丸、998トン 140257、日吉汽船株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 B 引船 龍豊丸、63トン 129036、豊海運株式会社 C 台船 Y27、総トン数なし なし、豊海運株式会社
乗組員等に関する情報	A 船長A、三級（航海） B 船長B、五級（航海）
負傷者	なし
損傷	A バルバスバウに凹損等 B なし C 右舷外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西北西、風力 6、視界 良好 海象：波高 約1m
事故の経過	A船は、船長Aほか9人が乗り組み、積荷役の目的で、大分港の検査錨地を抜錨し、私設バースに向けて約5～6ノット（kn）の対地速度で南進を開始した。 船長Aは、抜錨の際、日吉原泊地の防波堤入口付近に「B船とC船の引船列」（以下「B船引船列」という。）を視認しており、B船引船列が右方から接近してきたので、B船引船列の後方を通過しようと思いい、C船に向けて右転を始めたところ、A船の船首とC船の右舷側が衝突した。 B船は、船長Bほか2人が乗り組み、B船の船尾からC船の後端まで長さ約100mのB船引船列を構成し、大分県臼杵市臼杵港に向けて大分港日吉原泊地から出航した。

	<p>船長Bは、日吉原泊地の防波堤入口を通過し、約6knの対地速力で北東方に定針したとき、左舷前方にA船を視認した。</p> <p>船長Bは、左方から接近するA船がB船の船首方至近で横切るか、あるいは衝突するよう見えたので、左舵一杯を取って左転を始めたところ、C船とA船とが衝突した。</p>
<b>分析</b>	<p>A船は、南進中、船長AがB船引船列に対する見張りを適切に行っていなかったことから、針路を右に転じる時機が遅れ、C船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船引船列は、北東進中、船長Bが前方の見張りを適切に行っていなかったことから、A船に気付くのが遅れ、針路を左に転じたものの、A船と衝突したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、船長AがB船引船列に対する見張りを適切に行わず、また、船長Bが前方の見張りを適切に行っていなかったため、A船とC船が衝突したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の船舶との衝突を避けるための動作をとる場合は、十分に余裕のある時期に、大幅にとること。</li> <li>・他の船舶と進路が交差する態勢で接近した際、やむを得ない場合を除き、針路を左に転じないこと。</li> <li>・避航動作をとる際には、適切な操船信号を行い、他の船舶に操船の意図を知らせること。</li> </ul>